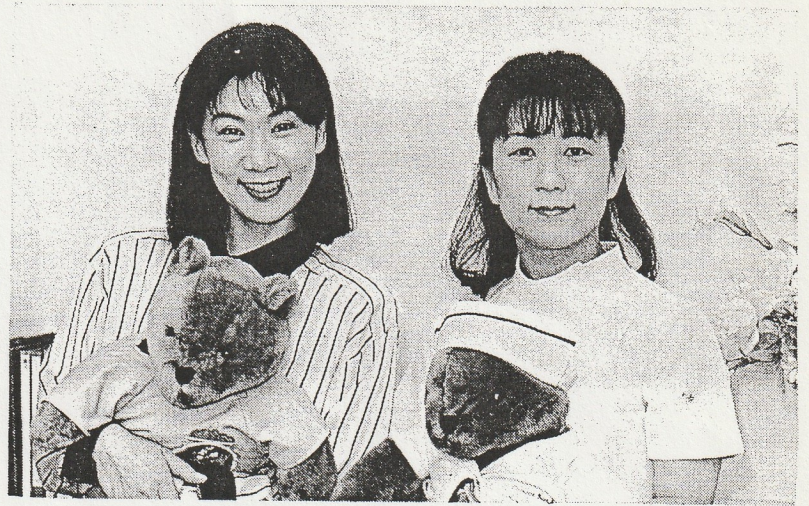


劇団結成、治療効果アップ



松尾クリニツク (八尾市)

院長 松尾美由起さん
女優 小鹿みきさん

小鹿 開業なさってどのくらいですか。

松尾 ちょうどこの十月で七年になります。

小鹿 七年ですか。お医者様になられて何年ですか。

松尾 昭和四十八年に卒業して、それからずっとですね。

小鹿 今、拜見しましたらお年寄りの方がかなりいらっしゃいますが、内科だけですか。

松尾 そうです。

小鹿 高齢化社会において、お年寄りが安心して健康管理を任せられるお医者さんが必要になってくると思うのですが、先生独自の考え方とか、モットーにされていることはございますか。

松尾 やはり常に患者さんの側にいて、いつも納得のいく医療をし、一緒に歩いていきたいと思っています。最初納得のいく地域医療を、ということではじめたのですが、やっけていくうちに患者さんに育ててもらったように思えますね。

小鹿 他にもたくさんお医者様がおられると思いますが、患者さんがこちらを信頼されて来られる理由はどこなところでしょうか。

松尾 私の所は三本柱と職員にも強調しているのですが、質の高い医療”、在宅診療を含めた地域社会への貢献”、感謝会が

この三つを大事にしております

感謝会といえますのは、いろんな教室を開いて、患者さんの精神的な復活に役立てるので

す。たとえば七宝焼、書道、麻雀、手芸教室、それと劇団を作りました。今度劇を上演しますが、劇団員は患者さんです。

小鹿 患者さんがされるのですか。

松尾 なぜ劇をするのかといえますと、高血圧教室とか糖尿病教室とか勉強の教室もあるのですが、それだけではなくて、実際自分がその病気の役をやったり、劇を観ることで、病気に対する理解とか、今後の新しい治療法というのを覚えてもらえるのです。

小鹿 生きがいというものを与えていらっしゃるのですね。

松尾 そうですね。生きがいを療法の一つというふうに考えています。

小鹿 七年間で一番困った事とか苦勞なされた点というのはどういふところですか。

松尾 在宅診療をしています

ので、夜中に車を飛ばしたことがあります。スピード違反で捕まったことがあります、それぐらいかな(笑)。

小鹿 今地域社会に貢献しようという、そういう気持ちでやっけていらっしゃるのですね。

松尾 これから四人に一人は老人になりますからね。だからもっともっと若い人を教育していかないとね。

小鹿 本当に人材を育成するのが今一番難しいですね。こちらでは人材には恵まれていますか。

松尾 ええ、看護婦が五人、検査技師が一人、レントゲン技師が一人、事務が三人です。

小鹿 患者さんの生き生きとした姿を見ている時が、やはり楽しいですか。

松尾 そうですね。患者さんに接するのが一番幸せですね。

小鹿 今後のご計画は?

松尾 運動もできて介護がいつでもできる、デイケアセンターというのを作りたいなと思っています。

小鹿 そんなトータルなものができれば素晴らしいですね。頑張ってください。ありがとうございます。